

国際ナショナルユースセミナー いろんな人あつまれ!

研 座 演 演 資 映 他 体 7

豊島区教育委員会
東京都豊島区教育委員会区民部学習・スポーツ課
TEL 03-3981-1189

実施年月日 実績等	事前学習会／平成16年9月30日(木) セミナー／平成16年10月9日(土)から11日(月・祝)までの2泊3日、 参加人数：企画スタッフ7人 参加者16人
主催(共催)	豊島区教育委員会
開催場所	事前学習会：豊島区立青年館等 セミナー：豊島区立青少年センター四季の里(福島県猪苗代町)
対象	18歳以上40歳未満の外国籍又は日本国籍保有者 定員30人
人権課題	外国人

※豊島区教育委員会生涯学習課は、平成17年4月より、区民部学習・スポーツ課に移行した。

事業の目的

青年世代の国籍を超えた交流を通して、互いの文化を理解するとともに平和や命の大切さなど世界共通のボーダレスな人権を考えるために、平成16年度に東京都が受託した文部科学省の「人権教育推進のための調査研究事業」として国際ナショナルユースセミナーを開催した。人権を理論上だけでなく、青年たちが互いに感じあい、そして自分自身のものとして受け止められるようなプログラムにするために、また、共に生活や交流活動をする中で体得していくために、区の青少年センターがある福島県猪苗代町という自然に囲まれた場所に宿泊してのセミナーとなった。

教育委員会と青年たちとの「協働」事業としても位置づけられ、青年を対象に公募で集った企画スタッフが参加し、事業企画や運営などの中心的存在になってもらった。人権に関するセミナーの企画運営に携わることで、企画スタッフ自らがより主体的・能動的に「人権」をとらえてもらうのも目的のひとつとなった。

事業概要

●企画スタッフ会

6月に広報「としま」で企画スタッフを5人募集したところ、7人の応募があり、全員を採用した。求職中の人、大学生、国際交流を何年も行って来た人、塾の講師、日本に滞在している外国人高校生など、様々な人たちが集った。

セミナーの企画を決定する企画スタッフ会は、当初は7月15日から5回程度の開催を予定していた。区の職員は方向性を示すだけに留め、できるだけ青年たちが自分で企画内容を決定していけるような環境作りに努めたところ、多様な観点からの企画が持ち上がり、5回の会議ではまとまらなかった。結果として、7月15日から毎週1回、3時間程度の話し合いを計21回行った。



オリエンテーションのようす

●事前学習会

9月30日の事前学習会は、当初の計画では講師を招き、人権についての講義を行ってもらう予定だった。しかし、企画スタッフ会での話し合いの結果、講師に話を聞くのではなく、参加者たちが自主的に話し合える場にしようということになった。

学習会の冒頭では参加者の自己紹介が行われたが、簡単にプロフィールを述べる程度に留める予定だったが、自然と一人ひとりが詳しく自分を表現していったため、他の参加者から自己紹介の内容に対して質問も飛び交うなど、楽しく充実した内容となり、初めて出会った青年たちの絆を深める時間となった。

●セミナー本番

セミナーは10月9日から11日までの2泊3日で行い、すべての進行・運営は、企画スタッフが担って実施した。

プログラム

1日目

- オリエンテーション
- アイスブレイキング(難民ゲームなど参加体験型のアクティビティを行った)
- 語らおうⅠⅡ(「手紙」「メール」「電話」「直接会う」の4つのうち、優先順位をどれにおいて伝えるかを話し合う「聞いて! 聞いて! ランキング」などを行った)

2日目

- ウォークラリー
- カレーパーティー
- 語らおうⅢ(こだわり青空ディベート…「デートは遊園地か映画館?」「子どもに携帯電話を持たせるべきか」「死刑制度の是非」などの議題についてグループで話し合った)
- 語らおうⅣ(ちょっと一緒に考えてみよう…性のモラル、子どもの教育、差別などについてグループで議論した)

3日目

- クラフト(あかべこ絵付け)
- 福島県の民話を聞こう
- 鶴ヶ城(会津若松市)観光

連携状況

区内の大学や専門学校、国際交流関係団体などが日本語、中

国語、韓国語、英語のチラシ配布に協力するなど、広報の部分での連携があった。

特色・工夫した点

- 企画や運営は企画スタッフが全面的に行った。
- ディベートやランキングなどの手法をとって話し合いを進めていった。
- 難民が避難する状況をシミュレートする「難民ゲーム」などの参加体験型のアクティビティも数多く取り入れた。

実施結果

参加者の反応・事業の反響等

- 事業が進むうちに、企画スタッフ会の活動そのものが、人権学習の場となっていった。
- このセミナーでは「語らおう」ということを主に設定した。始めは身近な話題から、最後は差別や教育をテーマに設定した。特に、「語らおうⅣ」では差別についてドイツの参加者から、東西ドイツの所得格差やそれに伴う差別について現状を聞いた。外国籍の参加者から生の声を聞いた貴重な機会だった。
- 語らいの時間を多くとったことによって参加者の国の事情などの背景を含めて、話し合うことができた。

反省点・今後の課題

- 外国籍の人たちへの周知が不十分であったので、今後、関係団体とも連携を深めながら効果的な告知方法を考える必要がある。
- 企画スタッフ会の進め方について、講師や助言者を依頼するなど、より効果的な進め方を工夫する必要がある。
- 異文化理解を人権の問題として発展させる道筋を確立する必要がある。
- 日本語を母国語としない人たちにとって、話し合いの場で発言が少なくなってしまうようであり、言葉の問題については今後の課題である。



「語らおう」のようす